

I C Tを活用した種馬鈴しょ生産の実証について

全国一の生産を誇る馬鈴しょは、畑作農業の経営規模拡大に伴う労働負担の増大などにより、作付面積が減少傾向にある。特に種馬鈴しょは、植物防疫法に基づく検査が義務付けられていることから、種馬鈴しょ生産における病株抜き取り作業の負担軽減を図るため、I C Tを活用した生産技術の実証に取り組む。

現状・課題

- 馬鈴しょ作付面積は年々減少、特に種馬鈴しょの作付面積の減少率大きい。
- 馬鈴しょは病気に弱く、植物防疫法により健全な種子の提供が求められている中、種馬鈴しょ生産農家においては、専門知識を要し、かつほ場見回りによる病株抜き取り作業が大きな負担
- 一方で、衛星データを活用した牧草と雑草の判別技術など、画像解析技術が大きく進展

種馬鈴しょ生産における
労働負担軽減

「種馬鈴しょ生産者の確保」
「作付面積の維持・拡大」

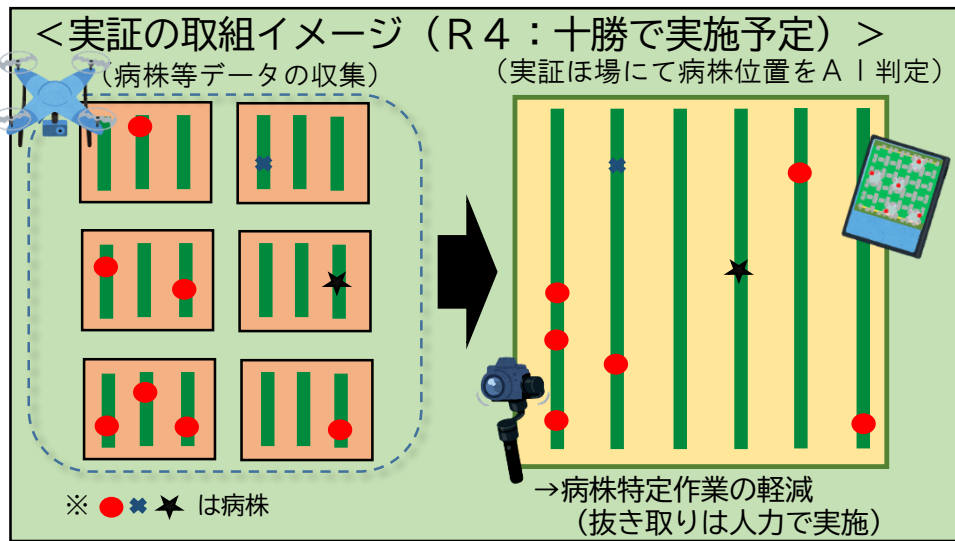
取組内容

1 病株抜き取り作業の負担軽減に向けた実証 (委託)

- ・病株・生理障害株の写真・映像データ収集
- ・病株のA I判定に係る精度向上のための技術実証
- ・従来の目視確認による抜き取り回数等のデータ集計（モニタリング調査）

2 検討会の開催

- ・取組計画や進捗、実績等の検討



めざす姿

- I C Tと人力をミックスした、手間のかからない栽培体系の早期確立
- 新たに取り組む種馬鈴しょ生産農家の確保・育成

全国一の馬鈴しょ
生産を支える種馬
鈴しょの安定生産
体制の確立

※R5以降は、今年度の実施状況を見ながら他地区での実証を検討